

## オレンシア点滴静注用250mgの調製・投与方法

- ・必ず、本剤に添付されたシリコーン油を塗布していない調製専用のディスプレイブルシリンジを使用してください。
- ・シリンジを使用前に、シリンジ（ガスケット及び注射筒）にヒビ等の損傷や異常がないか、確認してください。
- ・シリンジを使用前に、シリンジ内外に異物が付着していないか確認してください。

### ■溶解方法：1バイアル当たり10mLの日局注射用水（日局生理食塩液も可）で溶解してアバタセプト（遺伝子組換え）25mg/mLの濃度とする。

- ① 投与量及び必要バイアル数を患者の体重に応じて決定する。

【関節リウマチ】

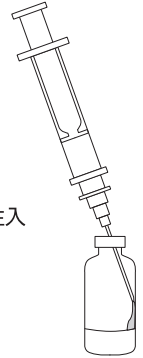
患者の体重	投与量	バイアル数
60kg未満	500mg	2バイアル
60kg以上100kg以下	750mg	3バイアル
100kgを超える	1g	4バイアル

【多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎】

患者の体重	投与量	バイアル数
75kg未満	10mg/kg	1-3バイアル
75kg以上100kg以下	750mg	3バイアル
100kgを超える	1g	4バイアル

- ② 各バイアルに、日局注射用水（日局生理食塩液も可）10mLをバイアル壁面に沿って流れるように静かに注入する。

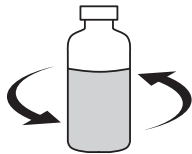
日局注射用水又は  
日局生理食塩液10mLを注入



注意1：調製専用シリンジと18～21Gの注射針を使用すること

注意2：注射針をゴム栓の中央に刺入すること（その際に陰圧状態でないバイアルは使用しないこと）

- ③ 内容物を泡立てないように注意し、バイアルを緩やかに渦をまくように回転させて完全に溶解する。



注意3：決して激しく振らず、長時間振り混ぜないこと  
注意4：泡立ちがある場合、針で通気して泡を消散させること

- ④ 1バイアル当たり10mLの溶解液ができる。

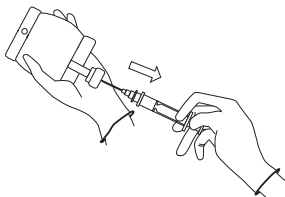
例：2バイアルの場合は20mLの溶解液



注意5：溶解後の液は、無色から微黄色の澄明な液である（微粒子、変色、異物を認めたものは使用しないこと）

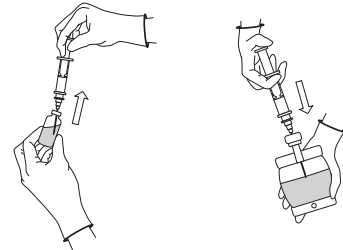
### ■希釈方法：溶解後速やかに総液量約100 mLとなるように日局生理食塩液で希釈する。

- ⑤ あらかじめ日局生理食塩液100mLの点滴バッグ又はボトルから、注入する溶解液と同じ容量分を抜き取っておく。



投与量	抜き取り量
10mg/kg	{体重 (kg) × 10 (mg/kg)} / 25 (mg/mL)
500mg	20mL
750mg	30mL
1g	40mL

- ⑥ ④のバイアルから必要量の溶解液を採取し、点滴バッグ又はボトルに緩徐に注入し、緩やかに混和する。バイアル中の残液は廃棄すること。



注意6：調製専用シリンジと18～21Gの注射針を使用すること

注意7：希釈液に微粒子・変色を認めたものは使用しないこと

注意8：希釈後は速やかに使用すること（なお、希釈後やむをえず保存する場合は、2～25℃で保存し、24時間以内に使用すること）

### ■投与方法：インラインフィルターを使用し、希釈液を30分かけて点滴静注する。

- ⑦ ⑥の希釈液の全量を30分かけて点滴静注する。

注意 9：本剤は、無菌・ピロジェンフリーで蛋白結合性の低い0.2～1.2ミクロンのメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること

注意10：独立したラインにより投与し、他の注射剤・輸液等と混合しないこと

詳細は製品添付文書をご覧ください。